

教養コース ⑤ 社会保障学

—すべての人に社会保障のある暮らしを—

第2回

社会保障がなくなる？

少子高齢化と年金・医療保障

期日 令和3年6月26日（土）10:00～12:00

会場 鶴瀬公民館

講師: 濱畑芳和氏（立正大学社会福祉学部准教授）

参加者 24名

第2回目は、社会保障がなくなる？少子高齢化と年金・医療保証

1. 「老後2000万円貯蓄」の衝撃 社会保障

- ・2019年6月 金融審議会報告書での「2000万円貯蓄」の根拠は「月額5万円」不足
- ・年金制度は被用者保険（厚生年金）と住民保険（国民年金）別々に運営 基礎年金へ
- ・年金制度はそもそも「高齢期の生活」をまるごと保障するという設計になっていないが、どうしてなのか、またなぜいま問題になるのか

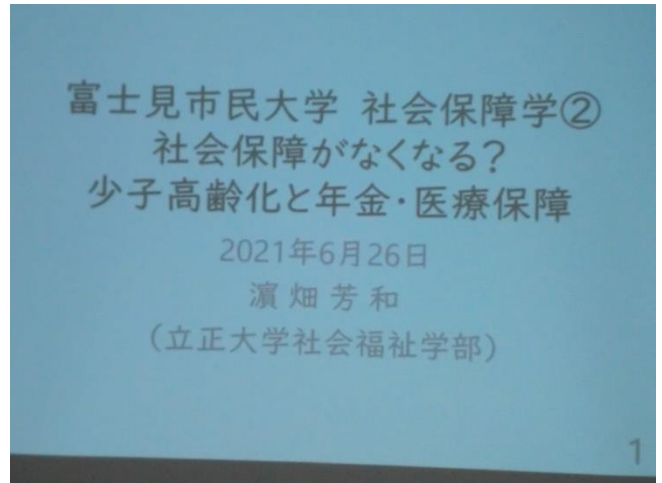
2. 「花粉症は全額自己負担」？医療保険

医療制度は被用者保険（健康保険）と住民保険（国民健康保険）後期高齢者のみ別制度へ



*生活保護世帯は「医療扶助」一部負担金の
推移 ー3割に近づく 医療費 年間40
兆円で推移

*2020年はコロナで若干減っている模様？
花粉症や風邪を保険外にしたいのはなぜ？
コロナ禍の中、「地域医療構想」に基づき病床
数削減計画が推進されている（高度急期、急性
期、慢性期病床について削減し、回復期病床へ
転換を促し、全体として病床数を削減する）
コロナを機に「とにかく削減」の姿勢を見直す
必要はないのか？



3. 胴上げ型から肩車型？ 少子高齢化

2065年、高齢者の数はほとんど変わらず、現役世代（15～64歳）が現在の4分の3に減少
単身世帯・夫婦のみの世帯が半数を超える 家庭内で支える人がいない状況

「支えられる人」から「支える人」に移ってもらう方法として高齢者の定義を変える提案（65
歳以上から75歳に引き上げ）

日本全体が徐々に「限界集落」化する状況をどう打開すべきなのか？

以 上

報告者 三上 聡雄